

2009年 3月 9日

島根大学長 殿

研究者名 (代表者名)
張 前進

㊟

2008年度研究奨励助成 研究報告書

研究分野	(該当する分野を○で囲んでください) 1. 寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続的可能な発展に関する研究 2. 生態系・環境の保護と再生に関する調査研究 ③. 農業経済と社会発展の比較に関する調査研究
研究者の連絡先	
実施期間	2008年4月 ~ 2009年3月

研究の実績・成果の概要

2008年6月、10月、11月、研究グループは三回ほど寧夏南部山区の原州区、西吉、海原、隆徳、彭陽、同心の五つの県を調査した。そして、各県の統計局、農牧局、林業局、旅行労働就職局を訪問し、座談会を6回開いて、また五つの郷(鎮)の10村、30戸の農家での現地調査を行った。また、1980年以来各年度の統計資料(年鑑)、農村エネルギー産業の発展と建設に関する統計資料、農村工業発展統計、地方都市(鎮)環境保護投資及びその運営方式と農村生態環境保護投資及びその運営状況などの資料を集めた。資料整理とデータ処理を通じて、寧夏南部山区農村経済の発展方式転換の時間と空間の変化法則を検討し、旱魃生態脆弱地区資源環境の対応能力と発展潜在力を細かく分析した。当該地域の経済発展と社会発展を制約している要因を分析した上で、南部山区農村経済発展方式の転換に関する新しい特徴を明らかにした。

各区域の特徴の違いと区域経済発展目標の確立によって、次第に特色ある区域発展局面を形成させる。AHP戦略方策分析方法によって、定量選択をし、当該区域産業の優先順位は草畜産業、馬鈴薯、産業、郷村旅行業、労務産業、循環型工業となる。現在、次の二つ論文を発表する予定である。

(1)「中国旱魃生態脆弱地区農村経済増加方式の評価体系に関する研究——寧夏南部山区を例にして」、(2)「寧夏南部山区農村経済増加と社会発展のパターン選択」。

今後、国内外の農村経済発展方式の転換に関する経験と方法を参考にして、寧夏南部山区農村経済、社会と環境の調和的持続可能な発展を実現させる道、対策建議と実施保障を引き続き探索しようと考えている。

区 分	金額 (単位: 円)	備 考
1. 物品費		
2. 消耗品費	50,485 円	(3,133.80 円)
3. 謝金等	121,397 円	(7,535.50 円)
4. 旅費・滞在費	13,613 円	(845.00 円)
5. その他	15,466 円	(960.00 円)
計	200,961 円	(12,474.30 円)

※交換レートは 16.11 円